

2009 年度第 1 回 社会的諸問題検討委員会 議事録

日時： 2009 年 4 月 12 日

場所： 京都

出席者： 丸山、佐藤、増井、松井、玉腰

1 月から 3 月に行われたサイトビジットにつき参加した委員からの報告をふまえ、意見を交流した。

- 対象者に対する研究の説明の内容や雰囲気はサイトにより大きく異なる。
 - ◇ 今までの経験の有無により説明の仕方に違いがあると思われるが、説明方法に関する研修会は今までに行われていない。全体会議の前後などで実施してはどうか。
 - ◇ 中央事務局からアドバイスをしたり、ノウハウを提供できないか。
 - ◇ テストラン時に中央事務局や他の既に経験を持っているサイトのメンバーが参加し、よりよいものを作るよう努めたらどうか。
- 人の異動の多い地区をサイトにすると、ベースラインに手間をかけ最初の人数を集めてもドロップアウト率が高くなってしまい、効率が悪いように思われる。

徳島大学の研究計画(職域コーホート)について討議し、指摘事項をまとめた。

中央事務局への意見

その他、来年度以降のことをふまえ、J-MICC 全体につき意見交換を行った。

- 目標数(10 万人)に達しない場合の対処
 - ◇ 現状でのパワーを検討しておく必要がある。
 - ◇ 対象者数の非常に少ない地区(例えば数百人)が生じた場合はどのように対応するのか。
 - 中央事務局やリクルートの終了している地区のメンバーが援助することも必要ではないか。
- 第二次調査の意義を全体の共通認識とした上で、調査内容や対象などを検討する必要があるのではないか。
 - ◇ 第二次調査を行う際の対象者数とパワーについて検討しておく必要がある。
- 各サイトで説明同意をより適切に行うため、対象者に対し必要事項をわかりやすく説明している地区の説明を、例えば全体会議の際にランチョンセミナーのような形で聞く機会を設けてはどうか。